

式 辞

3年間の勉学を無事修了し、如来様のみ光に包まれて相愛中学校の学窓を巣立つ55名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。

本日は、津村別院副輪番・大阪教区教務所長様、保護者会である育友会、後援会、敬愛会、そして高中同窓会の会長の皆様をはじめ本校にご縁の深い方々のご臨席を賜り、平成24年度の卒業式を挙行できますことは、誇らしく、大きな喜びであります。

さて、皆さんが相愛中学校の門をくぐってから、はや3年の歳月が過ぎました。顧みますと、3年前、皆さんが希望に燃えた瞳を輝かせて本校の門をくぐってこられたのが、つい昨日のことのよう思われます。しかし、先ほどから式場に整然と並んだ皆さんを見ると、この相愛中学校での成長のさまが、はっきりとわかるような気がします。もちろん、からだも見違えるほど大きく、逞しくなりましたが、皆さんの表情には知的な成長のあとがありありと窺えます。これは、長い人生のうちのもっとも貴重な3年間を、真剣に学び、心身を鍛えた成果であると思います。

そして、忘れてはいけないことは、今日の卒業式をむかえるにあたって、家族の方々や先生・友人をはじめ数多くの人たちの恩恵を受けてきたということです。「日々の糧」に

ひとりで歩いているつもりでも

多くの人の後押しがある

それは両親であり友人であり

見ず知らずの人であったりする

ひとりで歩いているつもりでも

多くの人の後押しを感じていくことを

「恩」という

という言葉がありましたね。この言葉を今日ほど実感できた日はないと思いますが、これからも嬉しいにつけ悲しいにつけ、この言葉を思い出してください。

皆さんは卒業後、併設校の相愛高等学校に進学する人、あるいは他校に進学する人など、進む道は様々ですが、いずれにしてもこの相愛中学校で学び、育んだ知識や知恵、人としてよりよく生きるために毎朝唱和した「日々の糧」や宗教の時間で学んだ教えを、さらに深め、研鑽し、高校で大きく飛躍されることを願ってやみません。

これからさらに大きく羽ばたこうとする皆さんに、私からメッセージを贈りたいと思います。

それは自己の確立ということです。これから皆さんは自己を確立しなければなりません。どういう自己かというと、自分には厳しく、相手にはやさしい自己です。そして、素直で賢い自己を確立してください。皆さんがこれから生きる社会では、このことはとても大切なことです。科学・技術は今よりも一層進歩するでしょうが、2年前の東日本大震災における原発事故のように、科学・技術が人間を飲み込んでしまってはなりません。科学・技術に支配されるのではなく、皆さんのしっかりした自己が科学・技術を支配し、社会をよい方向に持って行ってほしいと思います。

人間はけっして独りでは生きていけません。社会生活を営んでいく以上、私たちは助け合わなければなりません。助け合うという気持ちや行動のもとにあるのはいたわりという感情です。他人の痛みを感じることは、やさしさです。「いたわり」「やさしさ」「他人の痛みを感じることは、それらはもともと人間に備わっているわけではありません。ですから、訓練してそれを身につけなければなりません。訓練といっても難しいことではありません。たとえば、道端

で転んだ人を見たら「ああ、痛かったろうな」と感じる気持ち、足腰が弱ってバスに乗るのに難儀しているお年寄りを見たら「ああ、つらいだろうな」と思う気持ち、そういう気持ちをそのつど持てば、その感情は皆さんの中にしっかり根付いていき、それが周囲へのいたわり、さらにはひろく見知らぬ人や他民族へのいたわりにもつながっていき、きっと安穏な世の中になるでしょう。皆さんがそうした自己を確立することを願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、ご息女のご卒業おめでとうございます。ご息女のこの健やかでりりしく立派に成長された姿をご覧になられ、いかばかりかお慶びのことでありましょう。入学して3年間の中学校生活、慈しまれた日々の思い出で感慨深いことと存じます。心よりお祝い申し上げます。併せて、これまでの皆様の温かいご支援とご協力に、心から厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、もう一度、心を込めて、ご卒業おめでとう。

卒業、それは、始まりのときでもあります。皆さん、胸を張り、背を伸ばして、前へ前へと進んで、自分らしい人生を創り出しましょう。

皆さんの将来、未来に、幸多かれと心から念じ申し上げながら、

式辞といたします。

平成 25 年 3 月 16 日

相愛学園理事長

相愛中学校 校長 金児曉嗣